

経済・金融 フラッシュ

中国経済:14年8月の製造業PMI ~51.1%と6ヵ月ぶりに悪化

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 8月の製造業購買担当者指数（PMI、季節調整済）は51.1%と前月と比べて0.6%ポイント低下、2月の50.2%をボトムに改善してきたPMIは6ヵ月ぶりに悪化に転じた。
- 一方、生産経営活動予想指数は57.9%と大幅に改善した。住宅市場の変調などを背景に最近の予想指数は冴えない動きだったが、7月に続き2ヵ月連続で改善、上向いてきている。
- また、新規輸出受注指数は欧米の景気回復や元安（対米国ドル）を背景に改善傾向にあったが、最近の経済制裁の強化や元高が新たな懸念材料として浮上、次回の発表が注目される。

【8月の総合指数は6ヵ月ぶりに悪化】

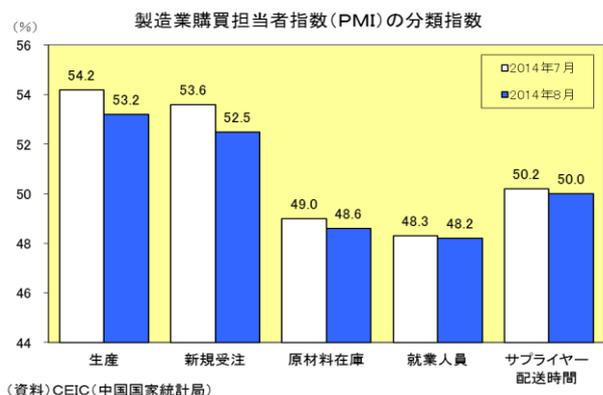
9月1日（月）、中国の国家統計局サービス業調査センターと物流購買連合会は2014年8月の製造業購買担当者指数（PMI、季節調整済）を発表した。総合指数は51.1%と前月と比べて0.6%ポイント低下、2月の50.2%をボトムに改善してきたPMIは6ヵ月ぶりに悪化に転じた。但し、拡張・収縮の分岐点となる50%は23ヵ月連続で上回っており、昨年夏に経済成長率が7%後半に上昇した時とほぼ同水準の高位を維持している（図表-1）。

総合指数を構成する5つの分類指数を見ると、生産指数は前月より1.0%ポイントの悪化、新規受注指数は1.1%ポイントの悪化、原材料在庫指数は0.4%ポイントの悪化、就業人員指数は0.1%ポイントの悪化となる一方、サプライヤー配送時間指数（逆指数）は0.2%ポイントの小幅な改善を示した（図表-2）。寄与度を計算して見ると、加重割合が25%の生産指数が▲0.25%ポイント、同30%の新規受注指数が▲0.33%ポイント、それぞれ総合指数を押し下げている。

（図表-1）



（図表-2）

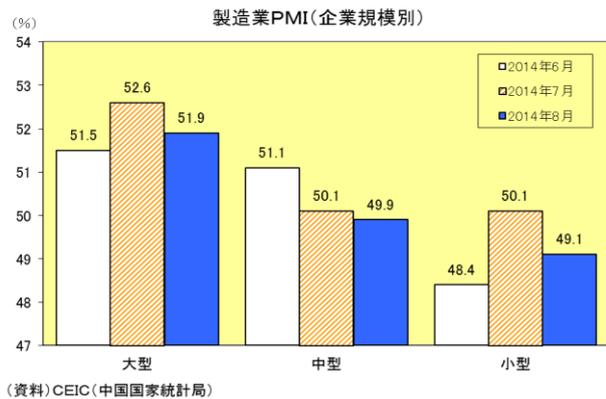


【 中小型企业は再び 50%割れも、予想指数は上向き傾向 】

企業規模別に見ると、大型企業は 51.9%と前月より低下したとはいえ拡張・収縮の分岐点となる 50%を大きく上回る水準を維持したが、中型企業は 49.9%と若干ながら 50%を割り込み、小型企業は 49.1%と再び 50%を下回る水準に落ち込んでしまった（図表-3）。

一方、今後 3 ヶ月以内の生産経営活動に対する楽観度を示す生産経営活動予想指数は 57.9%と前月より 2.6%ポイントの大幅改善となった。ここもこの予想指数は、住宅市場の変調などを背景に冴えない動きを示していたが、7月に続き 2 ヶ月連続で改善、上向いてきている（図表-4）。

（図表-3）



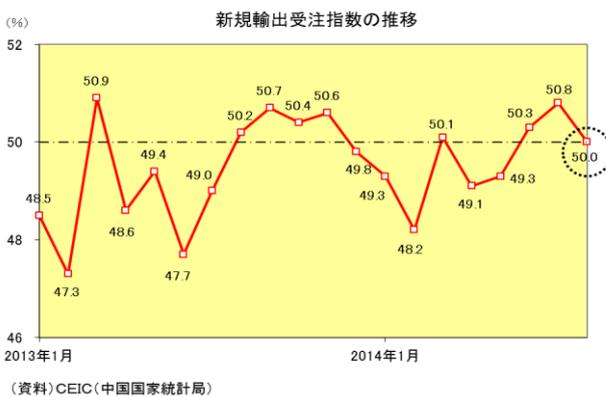
（図表-4）



【 新規輸出受注は 50%維持も、ウクライナ情勢や元安で不透明感 】

また、輸出の先行指標として注目される新規輸出受注指数は 50.0%と前月より 0.8%ポイント低下した（図表-5）。新規輸出受注指数は欧米の景気回復や元安（対米国ドル）を背景に改善傾向にあったが、8月の比較的大きな悪化で不透明感がでてきた。ウクライナ情勢の緊迫化を受けた経済制裁は中国の有力な輸出先である欧米経済にもマイナス寄与、最近の元高（対米国ドル）も中国の輸出にはアゲインストの風となりかねない（図表-6）。次回発表の 9 月の動向が注目される。

（図表-5）



（図表-6）



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。